

平成30(2018)年度

とちぎの元気な森づくり事業

評価報告書 (概要版)



令和元(2019)年11月

とちぎの元気な森づくり県民税事業評価委員会

とちぎの元気な森づくり県民税

私たちの大切な森林を県民全体の理解と協力の下に守り育て、元気な森を次の世代に引き継いでいくために、平成20(2008)年度から「とちぎの元気な森づくり県民税」を導入し、長年手入れされていなかった森林の整備等を進めてきました。

平成30(2018)年度からは本県森林の現状を踏まえ、森林の高齢化や境界等が不明な森林の増加などの課題に対応するため、期間を10年間延長し森林の若返りなどに取り組んでいます。

- 第2期事業 重点取組
- | | |
|-------------|-------------|
| 1 森林資源の循環利用 | 2 持続可能な森林管理 |
| 3 森林所有対策 | 4 県民理解の促進 |

森林資源の循環利用

植える→育てる→伐る→使う



評価結果

とちぎの元気な森づくり事業の透明性・公平性を確保するため、平成30(2018)年度事業の執行状況や効果について検証、評価を行った。

県は、今回のこの評価結果を十分に踏まえ、県民の皆様の理解と協力のもと、今後の事業を推進されたい。

□ 総合評価

第2期とちぎの元気な森づくり事業のスタートとなった平成30(2018)年度については、重点取組である森林の若返り（皆伐後の再造林等）をはじめ、各事業とも適正かつ着実に実施されていた。

□ 各事業の評価等

(1) とちぎの元気な森づくり未来の森整備事業

針葉樹林の皆伐後の再造林や広葉樹への樹種転換等、森林の若返りを支援するものであり、計画365haに対して実績342ha(実施率93.7%)となった。今後の森林の若返りを着実に進めるためには、施行地の集約化の促進が重要と考える。

なお、視察した樹種転換の施行地では、地域における広葉樹の利活用をしっかりと見据えた計画となっていた。樹種転換による資源活用の可能性を感じる取組であり将来に期待したい。

(2) とちぎの元気な森づくり木造・木質化等事業

中大規模建築物の木造・木質化等を支援し、木に親しむ環境づくり及び県産材の利用促進を図るものであり、公共施設や民間集客施設等7施設の木造・木質化や、学校等22施設において木製品整備が行われていた。また、とちぎ材利用創出強化事業では、建築士に対する中大規模建築物の木造化に係る講習会が開催され木材利用の普及が図られていた。

なお、視察した民間木造施設では県民の目に触れる場所での木材利用が少なかったため、今後は木の良さを実感できるPR効果の高い施設の優先採択について考慮すべきである。

(3) とちぎの元気な森づくり里山林整備事業

市町や地域団体等が行う里山林の整備を支援し、住民の生活環境を保全するものであり、通学路の安全確保や獣害対策などを目的に、すべての市町で計2,428haの整備・管理が行われていた。

なお、視察した里山林は、地域の方々の尽力により里山林の価値が維持され、自然環境学習会など森に親しむ機会の創出にも積極的に活用されていた。今後ともこうした活動を継続するには、担い手の高齢化、後継者不足といった地域の実情にどう対応していくかが課題と考える。

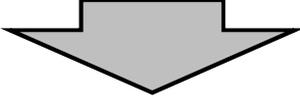
(4) とちぎの元気な森づくり森林所有対策事業

境界や所有者が不明な森林の境界等を明確にし、森林を適正に管理するための基盤を整備するものであり、栃木県森林組合連合会による地籍調査事業計画の策定（8市町14地区、約2,800ha）に支援が行われていた。

なお、喫緊の課題として、過疎化や高齢化で境界等が不明な森林の増加があり、森林の若返り（森林資源の循環利用）を進めるうえで森林所有対策は今後ますます重要と考える。

1 森林の若返りによる公益的機能の効果

平成30(2018)年度に実施した森林の若返り(植栽) 342haによる主な効果



水源かん養効果(洪水調節効果)

雨水を地中に浸透させ、大雨の時間当たり29,000m³の水の流出を調節

1時間あたりプール約73個分にあたる水の流出を調節する働きが高まりました。

※学校の25mプールは約400m³



山地保全効果(土砂流出防止効果)

年間5,700m³の土砂流出を防止

年間大型ダンプ約1,100台分の土砂流出を防止する働きが高まりました。

※「森林整備保全事業標準歩掛」
：10tダンプの土砂積載量は1台当たり5.3m³



樹木等による炭素固定効果

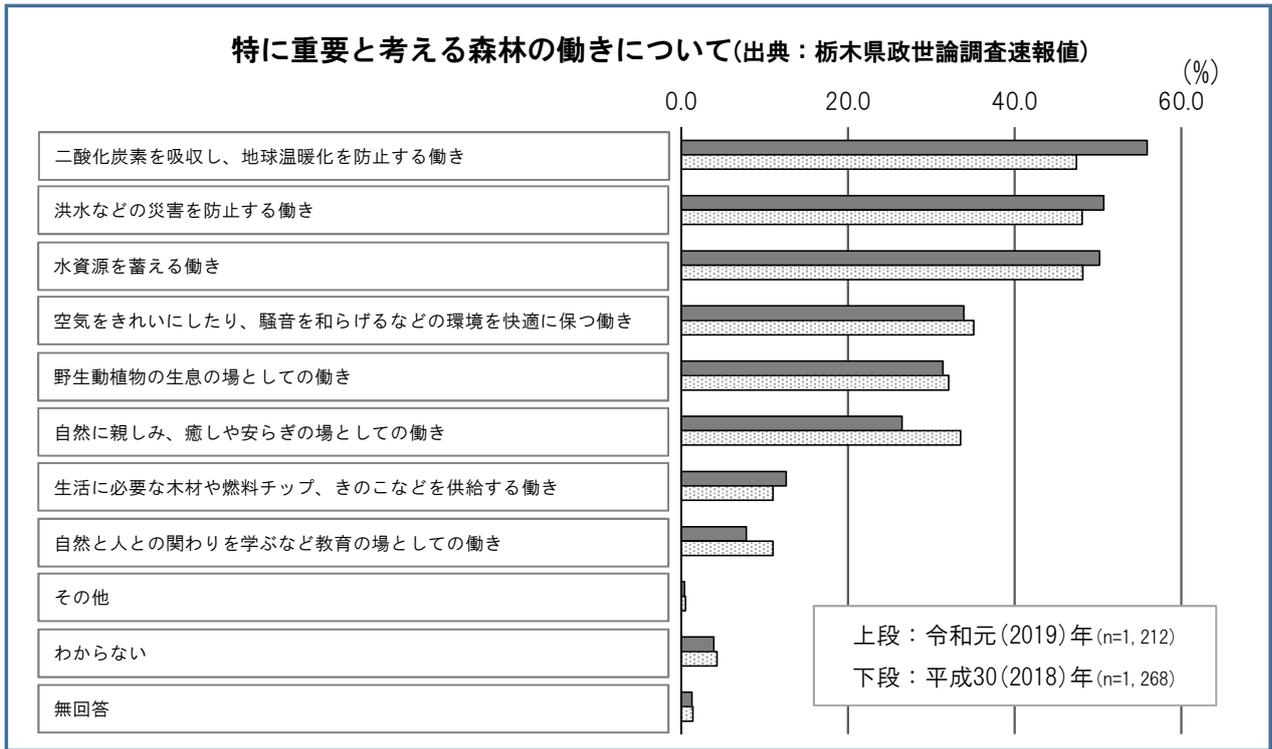
CO₂換算で年間1,600 tCO₂の炭素が森林に固定

毎年、一般家庭約350世帯が排出する炭素を森林に固定する働きが高まりました。

※温室効果ガスイベンリオフィス
：1世帯(2.2人)が年間に排出するCO₂は4,520kgCO₂



2 森林の公益的機能に関する県民理解度



3 各事業の主な取組成果

1 とちぎの元気な森づくり未来の森整備事業

利用期を迎えた森林について、「植える→育てる→伐る→使う」という森林本来のサイクルを回復させ森林の公益的機能の維持・向上を図るため、皆伐後の再造林や樹種転換などを支援して、森林の若返りに取り組みました。

再造林・樹種転換促進事業

・造林事業

針葉樹の皆伐後の地拵え、植栽、下刈りを行い、針葉樹の再造林及び、広葉樹への樹種転換を進めました。

区分	面積	市町
地拵え、植栽	342ha	15市町
下刈り	219ha	14市町



・獣害対策促進事業

植栽した苗木への薬剤の散布等によりシカからの食害を防止しました。また、成木の幹にネットを巻いてクマ等による皮剥き被害を防止しました。

区分	面積	市町
食害対策	276ha	10市町
剥皮対策	540ha	6市町



2 とちぎの元気な森づくり木造・木質化等事業

県産木材の利用促進のため、多くの人々が利用する公共施設、集客施設、商業施設等の木造・木質化や木製品の整備等を支援し、木に親しむ環境をつくりました。

・木造・木質化支援事業

市町、民間事業者による中大規模建築物の木造・木質化を支援

区分	木造化	木質化	計	市町
施設数	3件	2件	5件	4市町

市町計は、実市町数



佐野市

3 とちぎの元気な森づくり里山林整備事業

里山林の価値の掘り起こしや、通学路等の安全の確保、イノシシなどの野生獣被害軽減のため、地域住民等が行う刈り払い等の活動や、地域による里山の継続的な維持管理を支援し、民家周辺の里山林を明るく安全な森林にしました。

区分	面積	市町
里山林整備事業	574ha	21市町
里山林管理事業	1,854ha	21市町
計	2,428ha	25市町

市町計は、実市町数



上三川町

4 とちぎの元気な森づくり森林所有対策事業

所有者等が不明な森林を適正に整備・管理して森林の公益的機能を持続的に発揮させるため、栃木県森林組合連合会による地籍調査事業計画策定の支援等を行いました。

5 とちぎの元気な森づくり県民会議等事業

「とちぎの元気な森」を次の世代に引き継ぐための県民運動や事業の普及啓発活動等を実施しました。



壬生町

6 とちぎの元気な森づくり地域活動支援事業

県民協働の森づくりを促進するため、地域での森づくり活動や森林環境学習を支援し、県民の皆さまが森づくり・森林に親しめるようにしました。

・森づくり支援事業

木工教室や森林環境学習等をとおして地域住民や児童等に対し森林の働きや大切さ等を普及啓発

区分	活動数	市町
木の良さ普及啓発	16件	16市町
森づくり活動推進	26件	13市町
森林環境学習	8件	8市町
地域の創意工夫	1件	1市町
計	51件	22市町

市町計は、実市町数



佐野市



塩谷町

4 基金及び財源、事業実績の概要

(1) とちぎの元気な森づくり基金の状況

(単位：千円)			
平成29年度末残高 A	積立額 B	取崩額 C	平成30年度末残高 A + (B - C)
251,252	886,897	506,311	631,838

(2) とちぎの元気な森づくり事業 1,018,629 千円

【財源内訳】		
とちぎの元気な森づくり基金繰入金	506,311 千円	
国庫補助金等	512,318 千円	

(3) 計画及び実績

	(計 画)	(実 績)
	1,233,146 千円	1,018,629 千円

(事業名)	(計 画)	(実 績)
1 とちぎの元気な森づくり未来の森整備事業	758,324 千円	630,530 千円
2 とちぎの元気な森づくり木造・木質化等事業	122,907 千円	117,324 千円
3 とちぎの元気な森づくり里山林整備事業	296,140 千円	224,247 千円
4 とちぎの元気な森づくり森林所有対策事業	21,468 千円	18,609 千円
5 とちぎの元気な森づくり県民会議等事業	4,763 千円	4,316 千円
6 とちぎの元気な森づくり地域活動支援事業	29,544 千円	23,602 千円

※金額は千円単位四捨五入のため内訳が合わない場合がある

